

(再開 午前10時50分)

議長 (勝山 正)

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番、湯本行浩議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 湯本行浩 議員 登壇)

1. 中山間地域における農地の維持と次世代への継承は

3番 湯本行浩 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、通告に基づきまして1項目の質問に入らせていただきます。

中山間地域における農地の維持と次世代への継承についてです。

中山間地域では、小規模な田畑が多く、現在も兼業農家や小規模農家の方々が地域の農地を支えられています。そのため、平地のような大規模な整備ではなく、地域の実情に即した簡易で使いやすい農地整備を進めながら、優良農地を守り、将来的には担い手への集積や新規就農者へ円滑に引き継いでいく取組が重要であると考えています。そのうえで、農地保全、担い手対策、鳥獣被害対策、高齢者支援、地域維持を個別にではなく、一体的に進める複合的な政策が必要ではないかという観点から4点お伺いいたします。

1点目です。高齢者世帯を中心に、体力的な負担や管理費用の問題から、農地の維持が難しくなり、やむを得ず放置される農地が増えている現状があると認識しています。放置された農地が雑木化することで、周辺農地への悪影響、さらには鳥獣被害の拡大など地域全体に波及する問題が生じていると考えています。このような現状について、村としてどのように認識しておられるのでしょうか。

また、中山間地域における農地の荒廃が農業の衰退のみならず、人口減少や地域コミュニティの弱体化など、地域全体の衰退に繋がる可能性があるとの認識について、村の基本的な見解をお伺いいたします。

議長 (勝山 正)

日基村長。

村長 (日基正博)

「農地の荒廃が周辺農地に及ぼす影響と、それが地域の衰退に繋がることについてどのように認識しているか」というご質問であります。

農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地が増加して、それが有害鳥獣の要因になるなど、周辺農地への悪影響を及ぼしているということは、村としても深刻な課題であると認識をしております。

また、農地の荒廃や鳥獣被害の拡大は、それぞれ個別の課題ではありますが、その背景には農業従事者の高齢化や人口減少といった共通の課題があると受け止めております。

高齢化の進行により農地の維持管理が困難になれば、荒廃農地が増加して、有害鳥獣の被害の拡大を招く、景観の悪化や地域の魅力低下にも繋がり、さらには地域コミュニティの維持にも影響を及ぼす要因になると認識はしております。

議長 (勝山 正)

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問です。村として、荒廃農地の具体的な面積や増加傾向をどのように把握しておられるでしょうか。また、今後の見通しについて、数値的な分析や将来予測を行っているのかをお伺いします。これは数字はいりません。分析をしているかどうかをお聞きします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「荒廃農地、遊休農地の分析をしているのか」というご質問であります。農業委員会におきまして、毎年農地パトロールを行っていただいております。その中で、耕作されていない土地、そのおそれがある土地を把握しております。その結果を村の方にいただきまして、村の方から農地の適正な利用を村民の皆さんにお願いをしております。

具体的には、農地所有者に対して、今後の農地利用をどうされるのかという調査を行っております。その調査結果を踏まえまして、農業振興公社と連携いたしまして、農地の中間管理事業を実施して遊休荒廃農地の増加防止に努めております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

実際、これは増えているのでしょうか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

事前に通告をいただいておりますので、具体的な数字については申し上げられませんが、遊休荒廃農地については増加しているという状況にあります。

ただ一方で、農地として再生困難な土地については非農地化という処理をしておりますので、それによって、農地面積全体が小さくなっているという状況もございますので、ご承知いただければと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

農地荒廃が地域衰退に繋がることを認識されているのであれば、農地対策を地域振興策の柱の一つとして位置付けるお考えはあるのでしょうか。単なる農業問題でなく、地域政策全体の課題として取り組む方針についてお聞かせください。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

村といたしましては、農地対策に関連して、遊休荒廃地対策として対策に取り組んでいく方針でござ

ございます。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは2点目です。抜根費用への支援や公的関与についてです。

農地が荒廃し雑木が繁茂した場合、その再生には多額の抜根費用や整地費用が必要となります。個人の負担のみでは対応が難しいケースも少なくないと考えます。

こうした現状を踏まえ、農地荒廃を未然に防ぐ、あるいは再生を促進するために、抜根費用への助成や公的主体による関与など、具体的な支援策を講じるお考えがあるのでしょうか。現時点での検討状況や方向性について伺います。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「抜根費用に対する支援など対策を講じる考えはあるのか」とのご質問でございます。

この対策といたしまして、国の遊休農地解消緊急対策事業や村の土地改良事業補助金を活用することができます。いずれも要件等がございますので、そういった必要がある場合には、まずは村にご相談いただければと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問ですけれども、抜根費用等への支援についてですが、仮に単独の補助制度が難しい場合でも、既存事業の活用や国・県の制度との連携により、村独自の上乘せ支援や相談体制を整備するお考えはありますか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「上乘せの対策をする考えがあるか」というご質問でございますが、現時点そういった考えはございません。国の行っている事業、それと村で持っています土地改良事業、これをそれぞれ要件がございますので、村でできる支援と国の補助事業を使ってできる支援、それぞれに対応してまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問の2つ目ですけれども、被ってしまうかもしれませんが、再生可能性の高い農地については、個人任せにせず、村や地域組織などが主体的となって一時的に管理・再生する仕組みを検討

する余地はないでしょうか。公的関与のあり方について、より踏み込んだご見解をお伺いいたします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「遊休農地になるおそれのある土地の管理について公的な関与」というご質問でございますが、先ほど申し上げたとおり、農業委員会が実施します遊休農地に関する調査の結果を踏まえて、そういったおそれのある土地について、農業振興公社と連携いたしまして、担い手にそういった農地を斡旋したりといったことで、農家による利用、それとまた農業振興公社によって管理する農地ということで、それぞれで対応をしているところでございますので、ご承知いただければと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

ちょっと僕の説明がずれていたような気がしますけれども、「村独自の上乗せをするということはない」ということをお答えになりました。それをやはりこれから考えていく余地はないのかということをお伺いいたしました。

議長（勝山 正）

その余地はあるかないかということですね。検討するかしらないかという解釈でいいですか。

3番 湯本行浩 議員

そうです。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「村による上乗せの対策について検討の余地があるか」ということでございますが、必要に応じて今後検討してまいりたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは、3点目です。小規模農地の継承と圃場整備の方向性についてです。

中山間地域の小規模農地を荒廃させることなく、次世代へ確実に引き継いでいくためには、地域の地形や営農形態に応じた柔軟な圃場整備や基盤整備が重要であると考えます。また、守るべき優良農地を明確にし、担い手への農地集積を段階的に進めていく視点も必要ではないかと考えています。

この点について、村としての基本的な認識と今後の取組の方向性についてお聞かせください。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「小規模農地における荒廃地対策について」のご質問ですが、小規模農地を荒廃させないためには、圃場整備などの土地改良事業を行い、優良農地として担い手へ集積させていく必要があると認識しております。特に畑地につきましては、これまで土地改良事業が十分に実施されてこなかったことから、区画が小さく、農道も狭いなど、荒廃地化しやすい状況にあるため、圃場整備の必要性は理解しております。

一方で、全ての農地を一律に維持するというのではなく、地域の合意形成のもと将来にわたり守っていく農地を明確にして、これに対して圃場整備や担い手への集積を進めていくといくことが重要であると考えております。

いずれにいたしましても、地域の実情や合意形成の状況を踏まえながら、実現可能な手法を検討し、農地の有効活用等、担い手への集積に取り組みたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問ですけれども担い手への農地集積について、今後5年10年といった中長期的な工程表を策定するお考えはあるかお尋ねいたします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「中長期的な計画の策定のお考えはあるか」ということでございますが、現時点そういったことは考えておりませんが、実際に畑地につきましては、畑地農家と意見交換をしたうえで、圃場整備、簡易圃場整備の検討をしている最中であります。所有者、それから耕作者それぞれのお考えがありますので、なかなか進まない部分もありますが、そういった荒廃地化しないように、優良農地として維持していくために、圃場整備の検討等については今後進めてまいりたいと思います。

また、議員ご提案のように、計画を定める必要があれば、そういった検討も進めてまいりたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは4点目です。総合的一体的な政策の打出しについてです。

農地荒廃防止、高齢者支援、担い手対策、鳥獣被害対策、さらには地域コミュニティの維持までを個別施策としてではなく、相互に関連付けながら総合的に進めることが重要であると考えています。これらを包括した総合政策として、村として明確な方針を打ち出すお考えはあるのでしょうか。今後の施策展開の方向性について村の考えをお聞きします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日躰正博）

最初のご質問でもお答えいたしました。遊休荒廃農地の増加それから有害鳥獣対策については、農家の高齢化であるとか、人口減少が大きな要因になっているということは認識しております。そのため、個別の対策だけではなかなか効果が出てこないということも認識しております。

そこで村では、担い手支援や有害鳥獣対策、それからまた、国の方で行っております中山間農地の直接支払それから多面的機能等の制度を使いながら、そこには国・県そして村が交付金の財源を出して、共同で管理をしていく体制について進めているところであります。

先ほどありました「一体的な政策」ということでありますが、いずれにしても農地の維持管理、それからまた復旧にはかなり多額の費用がかかります。その費用をどういうふうに誰が負担するのか、それからまた、復旧した後その農地がしっかりと将来とも農地として維持管理できるかどうか、その辺の保証がないと、村としても予算をかけることはなかなか難しいかと。先ほど産業課長が申し上げましたが、担い手等権利者の合意形成を図りながら、簡易な圃場整備を行うというような計画を進めているわけですが、その辺費用対効果についても、村とすれば考えていかなければならないということをご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問です。ちょっとしつこいかもしれませんが、農地保全、担い手対策、鳥獣被害対策、高齢者支援を一体的に進めるためには、庁内横断的な体制づくりが不可欠と考えます。担当課を越えた連携組織やプロジェクトチームを設置するお考えはありますか。お聞きします。

議長（勝山 正）

日躰村長。

村長（日躰正博）

「一体的なプロジェクトチーム」というのは具体的にどういうものなのか、ちょっと見当がつかないので、ちょっとお答えしようがないんですが、よろしくをお願いします。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

担当課を超えた連携組織やプロジェクトチームというのは、圃場整備とか、子育てとか、高齢者とかいろんなものがあります。農地の担当課だけではなくて、いろいろな高齢者支援とかそういうものが一体的になったプロジェクトという意味であります。もしよろしければお答えください。

議長（勝山 正）

日躰村長。

村長（日躰正博）

そういう意味でのプロジェクトについては、なかなか難しいかなというふうに思います。

一連のご質問中であるのは、やはり農地の遊休荒廃防止、村全体の対策だというふうに思います。農地を活用した子育て支援であるとか、また、子供たちと高齢者の交流事業とかそういうものは当然考えられますが、それらの事業が荒廃防止等にどの程度寄与するのか、その辺はちょっと難しいのではないかなど。小さなものであればそのことは可能であるというふうに考えますが、それはプロジェクトとなれば、個々の事業の中で考えた方がいいのではないかと思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問です。数値目標、第7次総合計画の行動計画を伴う中期的なビジョンを策定するお考えはあるのでしょうか。村民に対して、将来像を示す形での政策提示について具体的な方針をお聞かせください。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

ご質問が今回いただいているものについては、遊休荒廃地対策、高齢者対策とそれから有害鳥獣対策、それからまた、そういう一連の質問と認識をしております。

先ほどの質問については、村全体の話のことなのか、ちょっとその辺がよくわからないので、なかなかちょっと答弁ができないんですが、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

すいません、質問の言葉が足りませんでした。数値目標とかそういうものはありますけれども、それに対しての工程表を決めていくかどうか、村民の人たちに示すかどうかをお聞きしました。

もう一度お聞きします。工程表とかそういうものをつくるという考えはおありになるかお伺いします。

議長（勝山 正）

内容的に、具体的な話が次から次に出てきてしまって、最初の通告の内容からちょっと段々と問題が違う方向にきているような気がします。答弁もやれるところはやったと思うんですが、なかなか難しい面が出てきますので、しっかりと通告に伴った質問でお願いします。

3番 湯本行浩 議員

はい。

議長（勝山 正）

今のことでいいですか。

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「農地に関する今後の計画のあり方」ということで、お答えしたいと思いますが、令和6年度に農地に関する地域計画というものを策定しております。この地域計画につきましては、10年後この農地を誰が耕作し、維持していくのかというものを地域で検討し定めていただくものになります。この地域計画につきましては、村内12地区で策定済みであります。

この策定に当たっては、国の中山間直接支払制度に基づく交付金の対象となっている、主に水田を中心とした農地について地域計画というものを定めております。一部畑地も入っておりますが、今後はそういったまだ入っていない畑地についても、集落や地域で協議していただきまして、この地域計画の中で位置づけていただきたいと思います。それを毎年更新していくような形で、農地維持を誰がどのように担っていくのかというものを定めていきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問の最後ということですが。

今、現場では、高齢の方が自分の代で農地を終わらせてしまうのではないかと不安を抱えながら、重い草刈り機を担いでおられます。若い世代は将来が見えないと言い、地域を離れていきます。この現状を前にして、私達は仕方がないと言って静かに縮小していく村を見守るのか、それとも明確な意志と戦略を持って立て直していくのか、その分岐点に立っているのではないのでしょうか。村として本気でこの地域を次世代に引き継ぐ覚悟があるのか、その覚悟を政策という形で示すお考えはあるのか、お聞きします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

正直申し上げて、この課題については全国的な課題だろうと思っております。特に畑については、なかなか、現在高齢者の皆さんが管理をしている、そしてまた、管理しきれない農地について荒廃が進んでいるというのが現状であります。それを次世代にどういうふう引き継げるかというのは、もっと大きな課題かなと思っております。

村は、元々土地改良については水田を中心に進めてきました。そのおかげで、村内の水田については、荒れている部分ではありますが、圃場整備が終わったところについては、ほとんど維持管理ができていないかと思っております。一方、畑については、圃場整備されていないところ、されているところを含めて、将来的には荒廃の心配があるということでもあります。一つには、やはり水田作物と畑作物については大きな違いがある。その辺が大きな要因かと思っております。

水田については、傾斜の関係、それから圃場面積の大小ありますが、作るものが主に米ということで、機械化等作業がある程度均一化されている。そのことで販売の目安、作業の統一が図られている、そういうことがやはり水田ができていく大きな要因だろうと思っております。

一方、畑については、そもそも何を作るのかでかなり経営形態が変わってきます。大規模経営が可能な穀物、豆類とかそば、そういう作物については大規模な機械化は可能ですが、単収はかなり低くなります。逆に言えば、かなり大規模じゃないと採算性がなかなか乗らないという課題があります。

一方、野菜等の作物については単収は上がりますが、作業はかなり重労働になる、なかなか機械化もできないということで、当然、大面積についてはこなせないという課題があります。

ですから畑については、従来アスパラガスとかズッキーニとか、そしてまた、最近では白ネギ等の栽培の推進をしているところではありますが、それらの農地について、比較的家に近い、道路が整備されているとか、そういうところについては維持管理ができていますのかなと思いますが、条件の悪いところについては、荒廃が進んできているというのが現状であります。

村でも以前、畑について整備したことがあります。かなり以前になりますが、例えば上原とか向原とか、内山村上等の畑について主に整備をしてきましたが、整備されたところであってもなかなか維持管理が難しいというのが現実であります。

それについては、先ほども申し上げたとおり、維持管理する以上はやはり経営として成り立たないと継続ができないわけではありますが、何を作るのか、そしてまた、高齢化等の関係でなかなか維持が難しいと。そういうことで先ほども産業課長が申し上げてきましたとおり、条件が揃って、担い手への流動化が可能、将来とも維持管理ができる、そういう見通しを立てた農地については、言ってみれば、村としても経費を投入して、整備を進めていきたいと思っておりますが、その先に、また荒廃してしまう可能性のある農地に村として経費をかけるのはいかがなものかと思えます。

その中で、先ほど申し上げた中山間とか多面的機能の制度を使いながら集落みんなで維持管理をしていく、また、将来とも可能な農地であればその事業の中に取り組んでいくというようなことも、これから大事かなと思います。そういうようなことを総合的に対策をとる必要があると思います。一律に、一体的な政策となるとなかなか難しいというのが現実ではないかと思っております。

議長（勝山 正）

以上で、湯本行浩議員の質問を終わります。

（終了 午前11時21分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は午前11時30分とします。

（休憩 午前11時21分）